

2006年5月19日

企業会計基準委員会と米国財務会計基準審議会が グローバル・コンバージェンスを目指して協議を開催

企業会計基準委員会
米国財務会計基準審議会

5月18日及び19日、企業会計基準委員会(ASBJ)と米国財務会計基準審議会(FASB)は、国際的なコンバージェンスを目指した相互の対話を促進するため、それぞれの代表者による協議を東京で開催いたしました。この協議は今後定期的に行われる予定であり、今回の協議はその第一回目であります。

現在、世界中の90カ国以上の地域において、国際会計基準審議会(IASB)が公表する国際財務報告基準が適用されています。しかし日本基準及び米国基準は、多くの点で国際財務報告基準と共通するものの、それとの差異も含んでいます。このため、ASBJ及びFASBは、国際市場での摩擦や資本コストの削減が可能となるよう、財務情報の首尾一貫性、比較可能性、効率性の一層の向上を目指し、共通の会計基準の開発を目指した作業をIASBとともに進めています。

第一回協議では、ASBJ側からは日本の企業会計制度の概要、日米間の会計基準の差異分析、IASBとの共同プロジェクトの最近の状況、及び、我が国会計基準の背景にある考え方(概念フレームワーク)の説明が行なわれました。

FASB側からは、概念フレームワークや公正価値測定、投資不動産の会計処理を始めとしたIASBとの共同プロジェクトの最近の状況について説明がなされました。

また、ASBJ及びFASBは、FASBがIASBとの共同プロジェクトで現在検討中の企業結合プロジェクトや財務諸表の表示(従前の業績報告)プロジェクトについても意見交換を行ないました。次回以降も、中長期的課題や現在の懸案事項について、引き続き意見交換していくこととしました。

斎藤静樹 企業会計基準委員会委員長は次のように述べています。

「世界最大の資本市場を有する二国の基準設定主体ASBJとFASBの代表者による定期的な会合は、会計基準の国際的なコンバージェンスにおいて歴史的な意味をもつことになると確信する。ASBJとFASBは、IASBと協力しながら、世界の資本市

場の健全かつ適切な秩序と一緒に全力で支えていく。」

ロバート・ハーズ米国財務会計基準審議会議長は、次のとおり述べています。

「グローバル・コンバージェンスを目指し、ASBJ と協議を行なうことを歓迎する。
我々の協議は、グローバルな財務報告の品質を高め、世界市場のより効率的な運用
を可能とする会計基準の共通化を達成するため、FASB と ASBJ が IASB とともに
連携することの強力なコミットメントを反映するものである。」

なお、第二回協議は本年 11 月に米国で開催する予定です。